

会派先進地視察報告書

◇ 7月25日（月）「淡路市」

阪神淡路大震災後の復興状況とその後の自主防災・地域防災の取り組みについて

◇ 7月26日（火）「小松島市」

タブレット導入及び通年議会について

◇ 7月27日（水）「須崎市」

いきいき百歳体操・かみかみ百歳体操の普及促進について

市民クラブ視察報告書

日 時	平成28年7月25日（月）午後1時30分から午後3時30分まで
視 察 先	兵庫県淡路市
視 察 項 目	阪神淡路大震災後の復興状況とその後の自主防災・地域防災の取り組みについて
視 察 者	市民クラブ（夏目 豊、荻田信孝、島崎昭三、古俣泰浩、藤井貴範、林 正則）
視 察 内 容	<p>当時の旧北淡町は、人口1万1,214人、世帯数約3,700世帯、被害状況は死者39名、重軽傷者870人、全壊1,057棟、半壊一部損壊2,250棟であった。救出作業は、発災後わずか45分後の午前6時30分災害対策本部設置、約300人が生き埋めになったが、当日昼過ぎには全員が救出され、午後5時ごろには行方不明者ゼロが確認された。</p> <p>日ごろから地域とのコミュニケーションがよくできていたことが被害を抑えられたことにつながっており、隣近所とのコミュニケーションの大切さ、防災意識の重要性（備え、訓練、命をどう守るか）、家屋の耐震、住民への情報伝達方法の確立、災害に強いまちづくり、災害後の心のケアの重要性があげられていた。</p> <p>行政の取り組みとして、市民活動の推進については、防災組織の育成強化、発災初期の段階において地域防災の担い手として活躍が期待される「防災士資格」取得者を対象に費用（約5万円）の一部を補助する制度を整備、防災体制の情報伝達の充実策として防災行政無線システム整備として、平成22年度には全ての家庭に個別受信機を配布。27年度から、防災無線の放送内容を電話で確認できるフリーダイヤルサービスを開始している。ハード対策として、地域防災計画において、市の防災・救援拠点として淡路市防災あんしんセンターを建設した。</p> <p>自主防災組織・地域防災の課題及び今後の取り組みとしては、自主防災組織の組織率は100%となっているが、実態としては地域ごとに取り組みに差があるため、今後活発な活動ができるよう補助金を設置した。</p>
所 感	<p>防災組織の育成強化については、「防災士の資格取得」に対する経費を各防災組織に補助をしていた。愛知県は「防災カレッジ」の受講による「防災リーダー」の資格取得をすすめているが、本市も全国的に通用する「防災士」の資格取得をさらに進めてはどうかと思った。全国的に共通した認定資格を取得することで、全国にも通用する防災組織を育成することができるのではと思う。また、自主防災組織に資機材購入の補助金を支出しており、自主防災組織の育成の意識を感じることができた。</p> <p>防災行政無線は、屋外の無線のほかに家庭用受信機を全戸に配布し聴取不良を削減し、さらに電話で確認できるサービスまで実施していることは、本市も聴取不良地区が多いと聞くので参考となる事業だと思う。</p> <p>防災あんしんセンターは、1階の小中学校の給食センターの上に、防災センターを設けて万が一の際は、給食センターが炊出し施設として機能できるように整備されており、施設の有効利用としてよい例だと感じた。また、その隣の屋根付きフットサル場、芝生広場、グラウンドが防災拠点として利用できるように整備されており、センターを中心に資材受入、活動拠点が整備されていた。屋根付きのグラウンドは、天候に関係なく資材受入の施設として活用事例として参考になった。</p>

日 時	平成28年7月26日（火）午後1時から午後3時まで
視 察 先	徳島県小松島市
視 察 項 目	タブレット導入及び通年議会について
視 察 者	市民クラブ（夏目 豊、荻田信孝、島崎昭三、古俣泰浩、藤井貴範、林 正則）
視 察 内 容	<p>小松島市では平成24年9月3日議会運営委員会でタブレット端末（iPad）の導入の提案があり、同日、全員協議会で9月議会常任委員会から導入することを決定した。ソフトバンクテレコムと法人契約を締結、議会としての法人契約は全国初とのことである。</p> <p>iPadに関する申し合わせ事項については、個人的な使用も認めるなど議員個人の自覚を尊重した自由度の高いものであった。支払方法については、月額通信料及び基本使用料等は、2分の1を政務活動費、残額を自己負担とし議員報酬から天引きすることとなっていた。</p> <p>通年議会は、平成25年から導入。導入の目的は、専決処分の減少と緊急時に迅速に対応するためとのことであった。</p> <p>課題として、いつでも議会を開催できるというメリットによる効果を得られていないことが挙げられていた。</p>
所 感	<p>タブレットの導入については、費用分担等の方法は参考になった。しかし、予算書や決算資料にコメントが挿入できない点や、過去のデータとの比較ができないという点は、課題が残るものであった。しかし、時代の要請もあり、タブレットの導入は前向きに検討したいものである。一方では、費用対効果や利便性を高めるという点も課題となることから、現在検討中の議会運営委員会で検討していきたいと考えている。</p> <p>通年議会の導入については、導入前の議論はあるにしてもまずは導入し、課題や問題があれば見直していくという考え方には共鳴を覚えた。理屈整理が前段にある議論では議会改革は前に進まないという小松島市議会の取り組みは大変感銘を受けたと同時に、前議長がその中心を担い、リーダーシップを発揮してのことではないかと想像しているが、改革には強いリーダーが必要である。しかも、議長職を交代した以降も積極的に改革の議論に参加されている姿には尊敬をもったところである。また、議員数17名の議会であるものの、会派は4つと1人会派が5つであり、考え方をまとめるのにも苦労があると思われた。</p> <p>議会運営の要は議会であり、都度の市長による議会開催ではなく、議会の主体性による通年議会（通年会期）については、前向きに積極的な導入を目指していきたい。</p>

日 時	平成28年7月27日（水）午後1時30分から午後3時30分まで
視 察 先	高知県須崎市
視 察 項 目	いきいき百歳体操・かみかみ百歳体操の普及促進について
視 察 者	市民クラブ（夏目 豊、荻田信孝、島崎昭三、古俣泰浩、藤井貴範、林 正則）
視 察 内 容	<p>いきいき百歳体操導入は、平成18年から健康診断で生活機能評価を行った2次予防事業対象者でスタートした。20年から元気高齢者も対象に広げ、24年に2次予防事業把握事業（特定高齢者）を実施。対象者を把握し、誘い出しを行った。</p> <p>行政が主体となって行っているゆうゆう大学18回コース、筋力向上を主体としたものから現在は複合体（身体・口腔・栄養・認知）の教室へ内容が変化し、健康学習と体操をセットにして実施。今年度から認知症予防のしゃきしゃき体操も追加している。場所を変えて各地域で年2か所から3か所で実施している。</p> <p>地域への拡大の取り組みの1つ目はゆうゆう大学を実施中に、卒業後に地域で継続できるように支援するもの。2つ目は地域でやりたいという声が上がれば10回コースで保健師・看護師が入り、地域の集いとして支援している。現在、市内で64か所が活動している。</p> <p>課題は、高齢化によるリーダーや世話役の確保、場所の確保、公民館の耐震化・通うことが困難な場所にある、会場の公民館が飽和状態であること、参加者の送迎に関してなどであった。ゆうゆう大学入学時に体力測定や健康診断を実施、卒業時にも同じ診断をすることで健康度及び体力アップの成長を参加者本人にも認識していただき継続を促進しているとのことである。本人の笑顔もふえきずなも深まるとのことであった。</p>
所 感	<p>いきいき百歳体操・かみかみ百歳体操を実際に体験し、視察前の予想より運動負荷が高く効果があると強く感じた。体力向上の実態等の明確な効果の確認を行っていないということだったが、運動機能向上実績等の具体的効果を示すことができる体制をつくり、新たな参加者に明確な効果を納得していただくことが普及促進に大きな効果を発揮するのではと思った。</p> <p>本市のふれあいサロン、地域型総合スポーツクラブなど高齢者対象の事業と同様に、女性の参加者が多く男性の参加者の増加が課題であった。男性が参加できる環作りの一環として、専属トレーナーを地域に派遣した導入も効果的ではと感じた。健康寿命を延ばすための効果があり、この体操を通じ地域単位で人が集い交流できる事業として「筋力体操、口の体操、脳のトレーニング」を導入を検討していきたい。</p>